



G.K
ギャルで巨乳

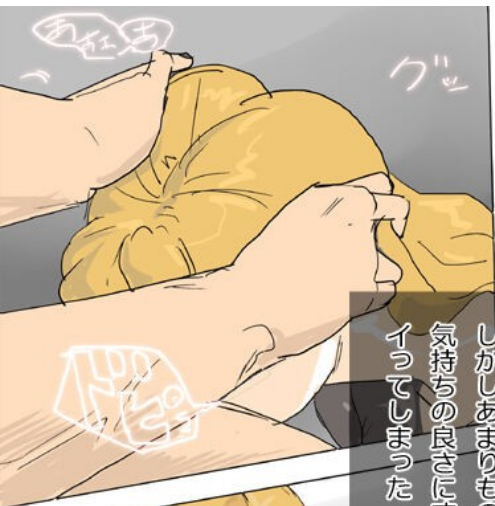


バスト
100cm以上?
ジャパン?

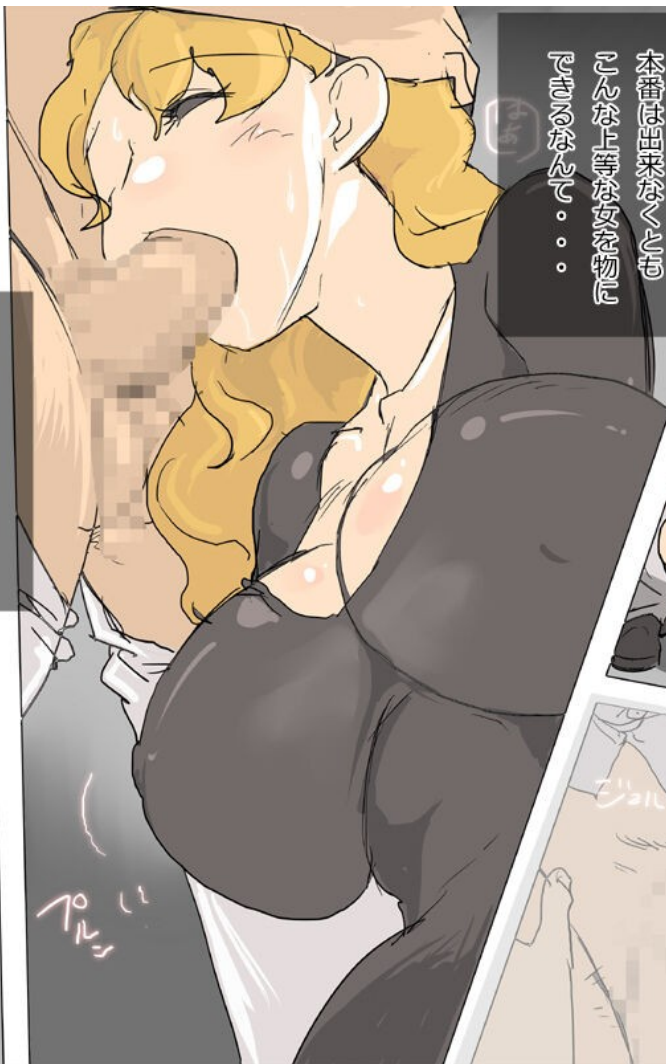
見事な巨乳にイヤらしい顔。
私は彼女と
セックスがしたいと思った。

彼女の名前は
佐藤エリナ
生粋のギャルだ。

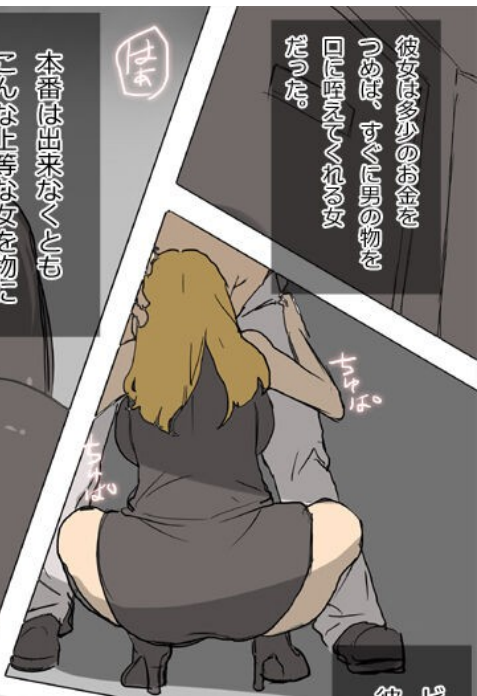
ちよんこ
まじうケル



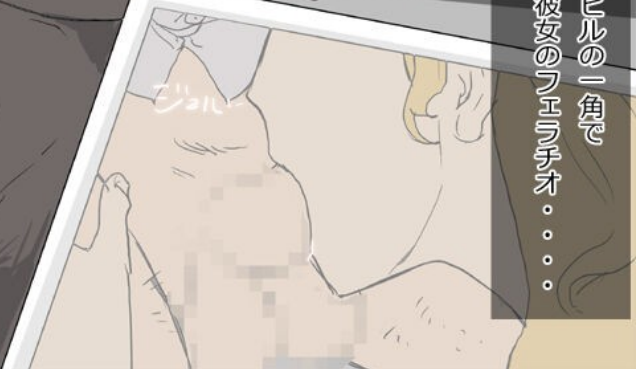
この髪型は
髪持ちの
イってしまっ...



本番は出来なくて
こんな上等な女を物
でねなして...



彼女は多少のお金を
つめば、すぐ男の物を
口にするんじゃない
だった。



ピルの一角で
彼女のフェラチオ...



はぁ・・・2回も射精したのに
まだまだイケちゃうだった。

あ
あ
あ

あ

あ



そしてさっさとオッパイで
バイスっ・・・

お金を払えば彼女は
自分の口と胸で奉仕してくれた。

あ
あ
あ

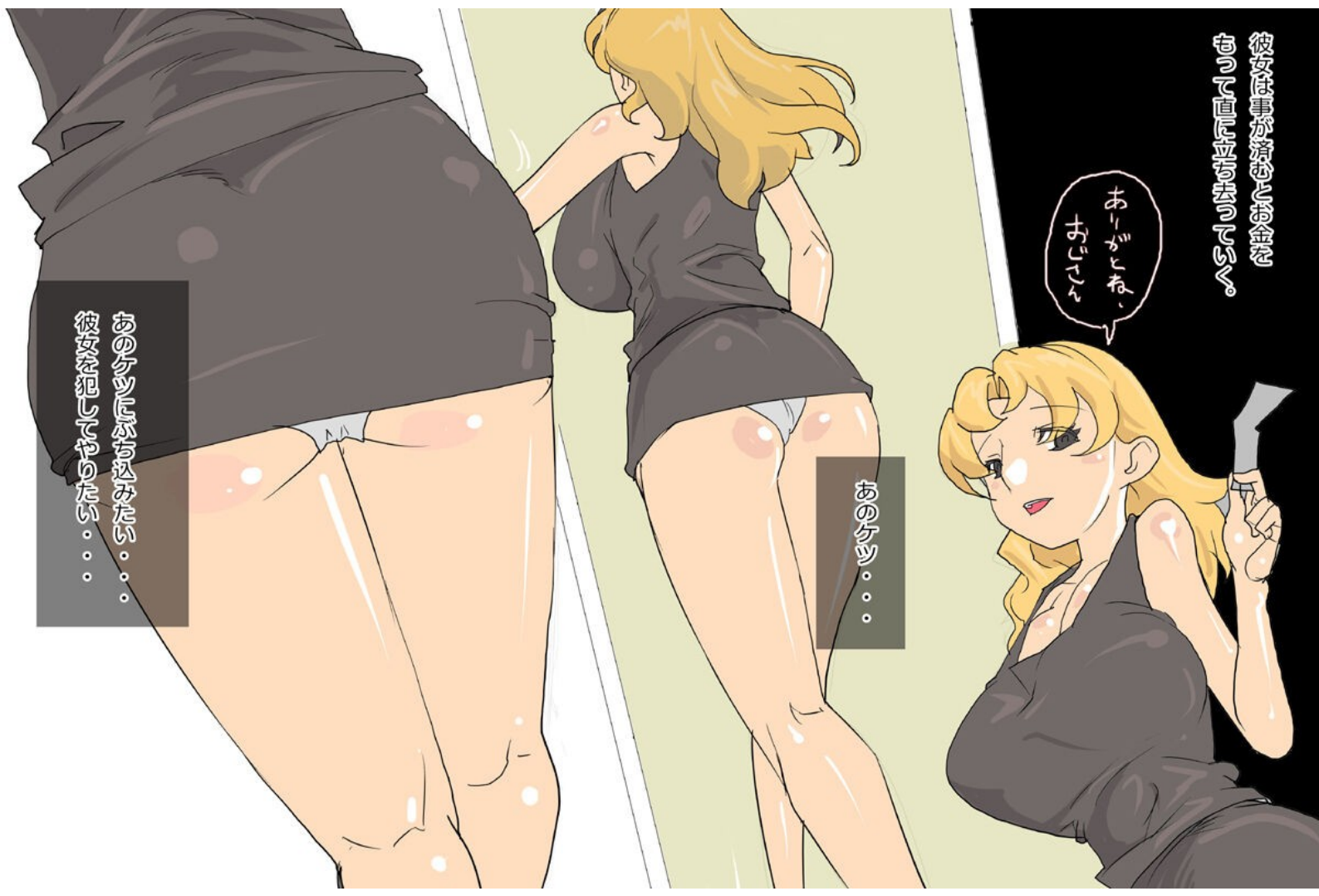
たいん

彼女が事件を解決してほしくて
おっぱいを揉んであげよう。

おーがとあー
ちゅーぽん

あの尻っ……

あのケツにぶち込みたい……
彼女を犯してやりたい……



私は仕事でお金をためるたびに彼女の所を
おとすれた。

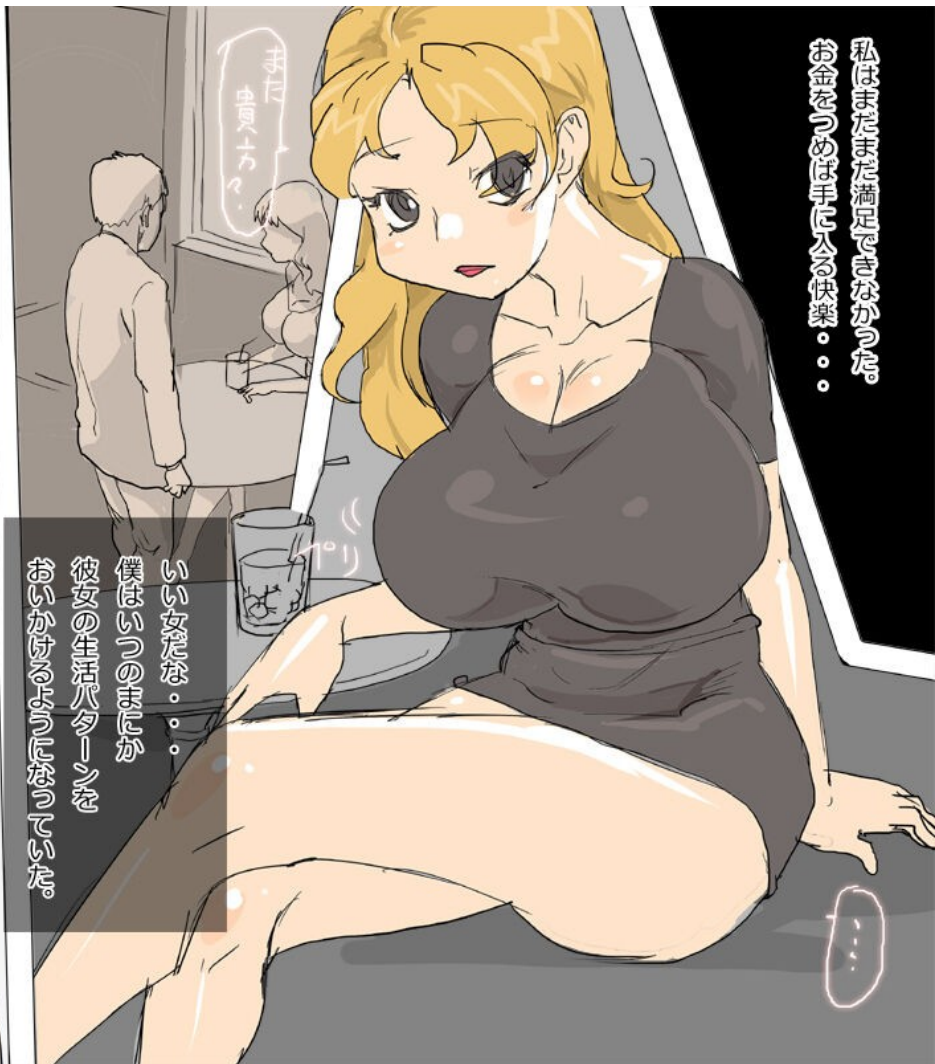
一回で生活費以外がとんでしまうほどの金額だが
あの快樂には変えられない



ニユ

そらね

いったいいくら積んだら
セックスしてくれるのか
本気で聞いて見た。



私はまだまだ満足できなかった。
お金をつめば手に入る快樂。。。

いい女だな・・・
僕はいつのまにか
彼女の生活ハターンを
おいかけるようになっていた。

まだ
虫買つか？

ポリ

...

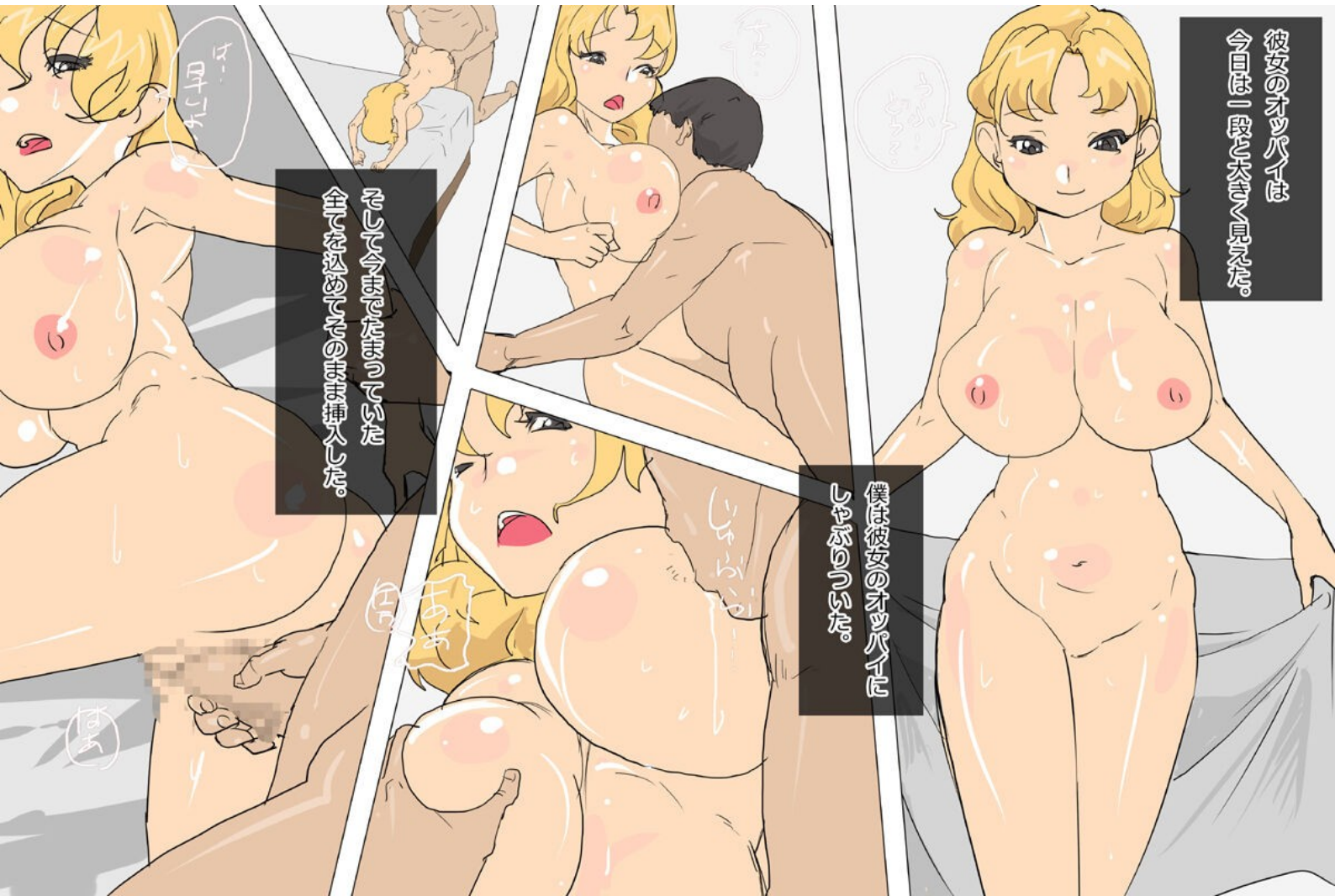


「 何だ... 可愛いよな... 」

「 可愛いよな... 可愛いよな... 」

「 さあ、可愛いよな... 」

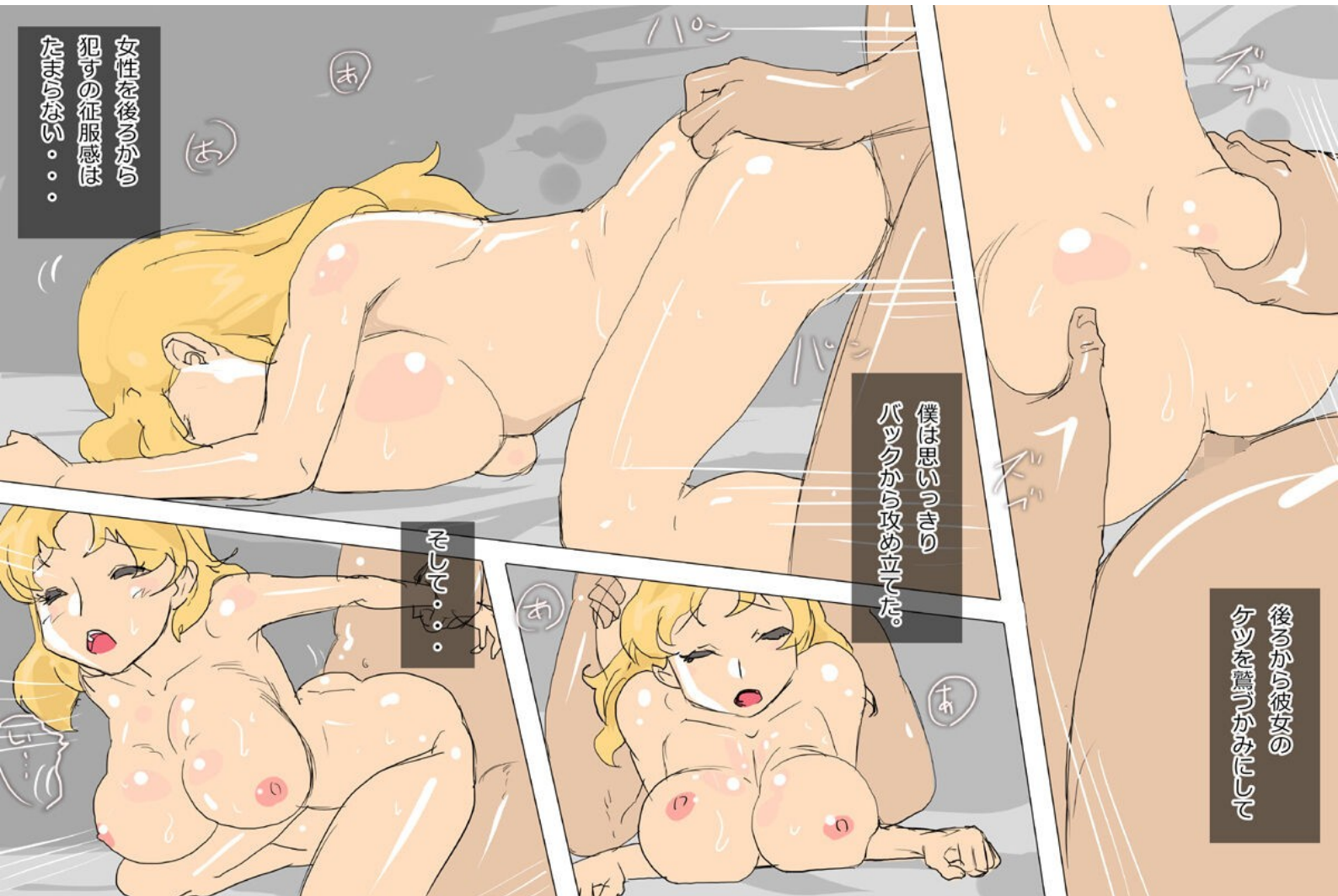
「 可愛いよな... 」



彼女のオツパイは
今日は一段と大きく見えた。

僕は彼女のオツパイに
しゃぶっていた。

そして今更なうっせえ
全部を込めてこのお乳挿入した。



女性を後ろから
犯すの征服感ほ
たまらない。。。

僕は思いつきり
バックから攻め立てた。

後ろから彼女の
ケツを鷲つかみだして

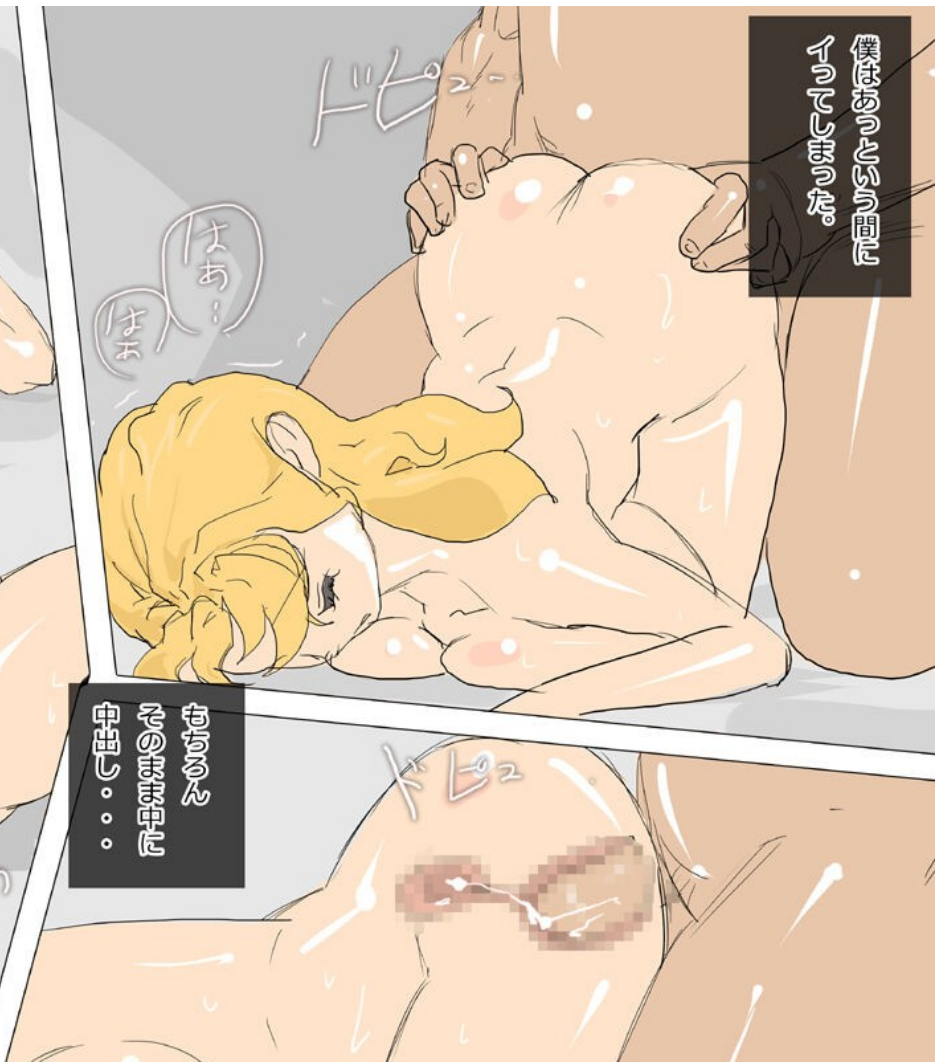
アハハ。。。



ほよ

彼女の膣から
僕の精液がこぼれ落ちる

どろ
どろ



ドゾ

はあ！
はあ

僕はあんなに
気持ちいい
って思った。

あんなに
気持ちいい
って思った
って...

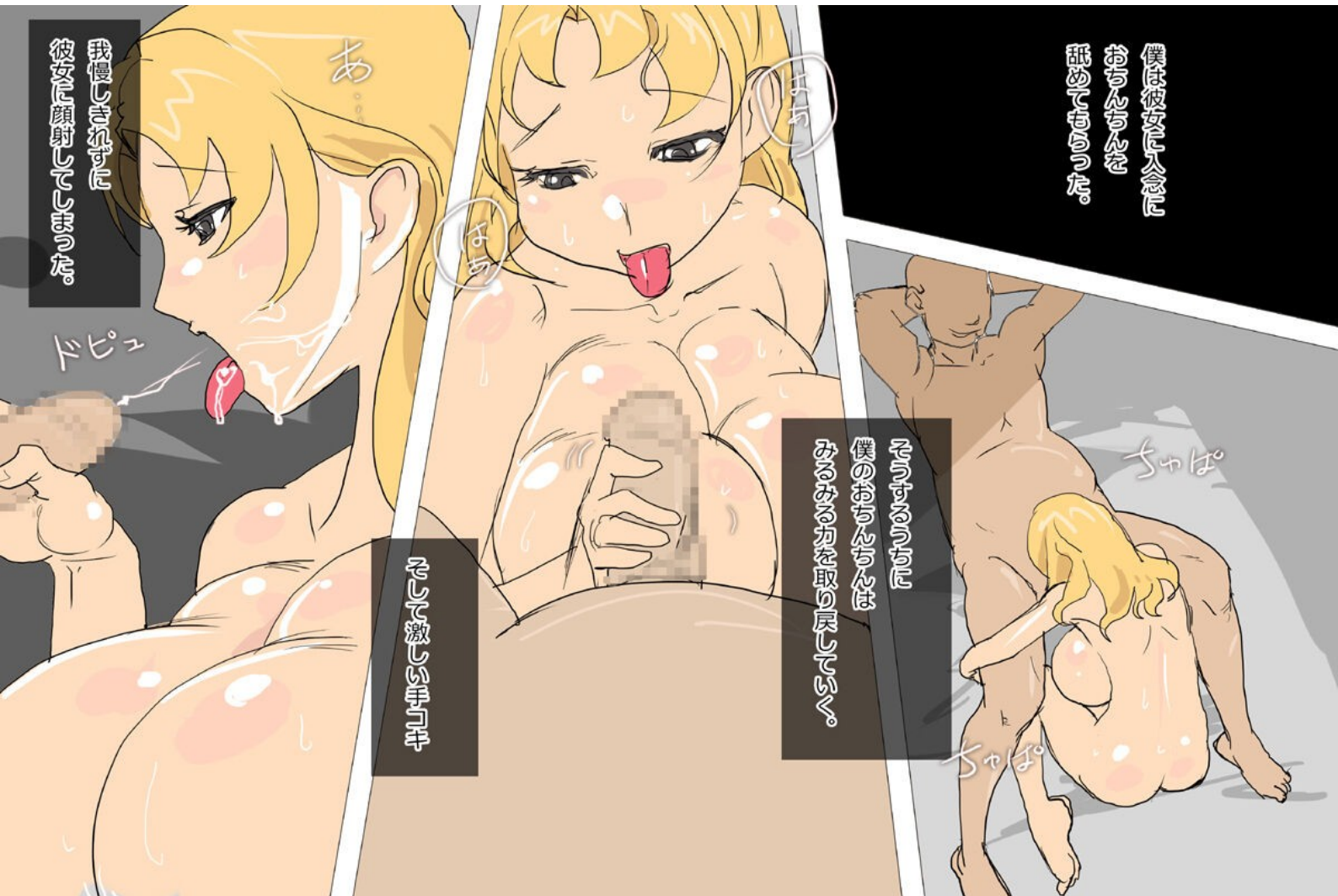
ドゾ

どろ
どろ

もっとう一発で
取っつかうなよ……

金庫
払ったんだ……

僕は彼女を……と
犯して……と思った。



僕は彼女に入念とおちんちんを舐めてもらった。

我慢できずに彼女に顔射してしまった。

そのおちんちんは僕のちんちんはみるみる力を取り戻してらん。

ちんちんが戻った

あ

あ

あ

ちゅぽ

ちゅぽ

ドピュ



そして今度は彼女の乳首を弄りながら、その巨乳を舐め回す。

彼女の絶叫はHROSSが、LONONが聞き取った。

僕のものも興奮で、すぐに復活した。

あゝ

あ



そして又
彼女へ挿入

女へ入れるのが
こんなに気持ちいいのは
思わなかった。

何度入れても
気持ちいい……

ズグ

ズグ

あ

ズグ
ズグ
ズグ

あ

巨乳で顔をうすめながら
彼女をカクカク突いた。

「母乳がっつり吸なすっ」

「おめえなすっ吸なすっ」



やえ...
淫婦がっつり吸なすっ...
と吸った。



妊娠させてえ・・・
母乳を下さい・・・

僕はそう思いながら
彼女のより深い膣の奥に
思いつきの射精した。

本当に妊娠したら。。。

僕は彼女が母乳を垂らしながら

喘ぐ姿を想像してしまった。

大金をつかってこれっきりたなんて。。。

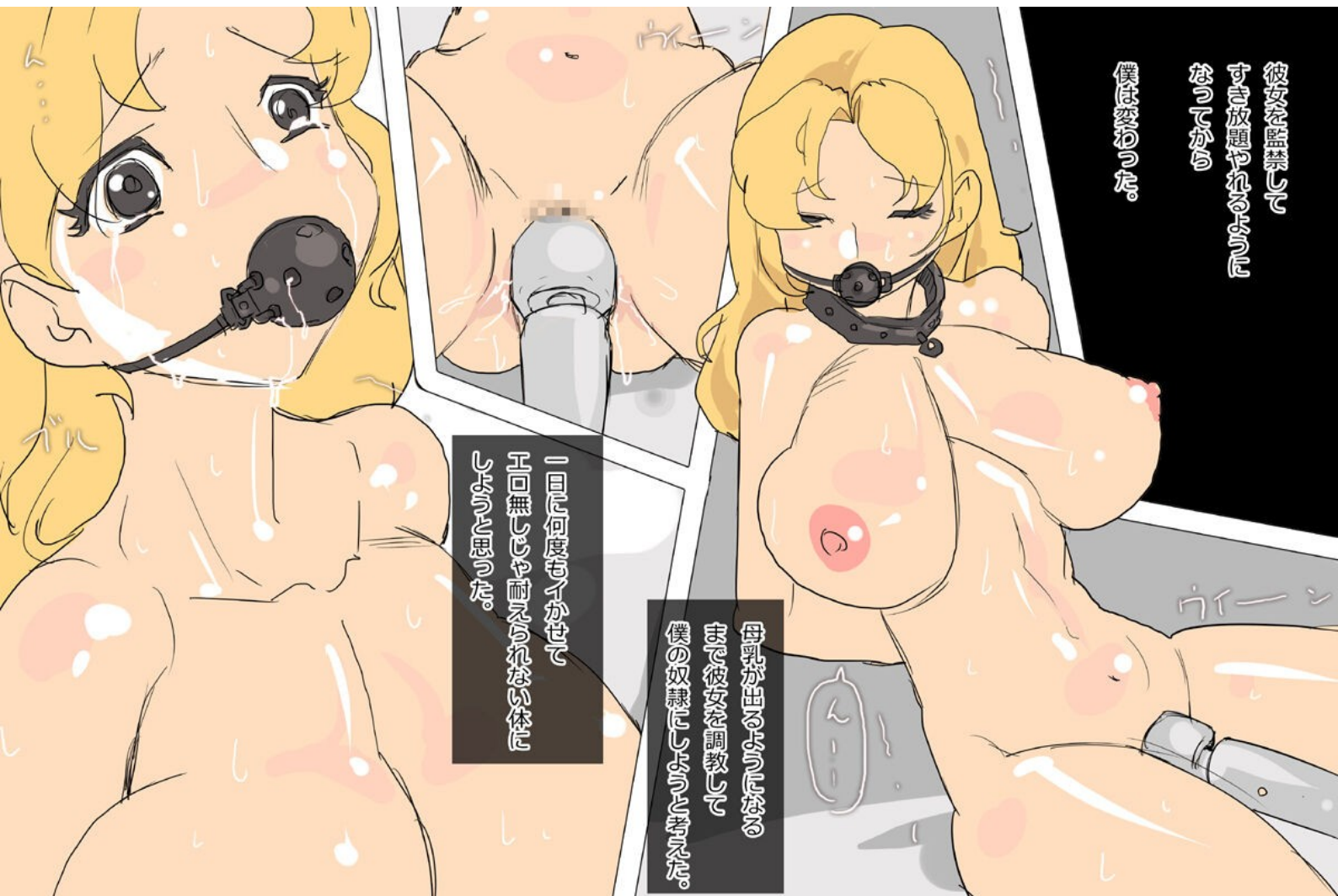
僕は彼女を。。。

無理矢理 監禁する事にした。

彼女を監禁して
すぎ放題やれるようになった
から
僕は変わった。

母乳が出るようになって
まで彼女を調教して
僕の奴隷にしようと考えた。

一回で何度もムかせて
エロ無じや耐えられない体
にしようと思った。





そしてこの女が
乳を吐き出す
なった瞬間……



僕は
毎日興奮が収まらなかつた。



誰が主人がはっきりの
させておきたかった。



卑屈な、この女を追いかけて
いた時とは違う。





彼女も普通のセックスじゃ
簡単に絶頂といかなくなっていた。

そっちはマン○だせでなく
アナルも犯した。

彼女の全ては主人である
僕の物なのだ。

その瞬間直前の
首絞めプレイ。。。

極限まで膣が締まって
最高だった。

この女は
根っからの
ビッチなのだ。。

彼女も嫌がりながらも
求めてくる

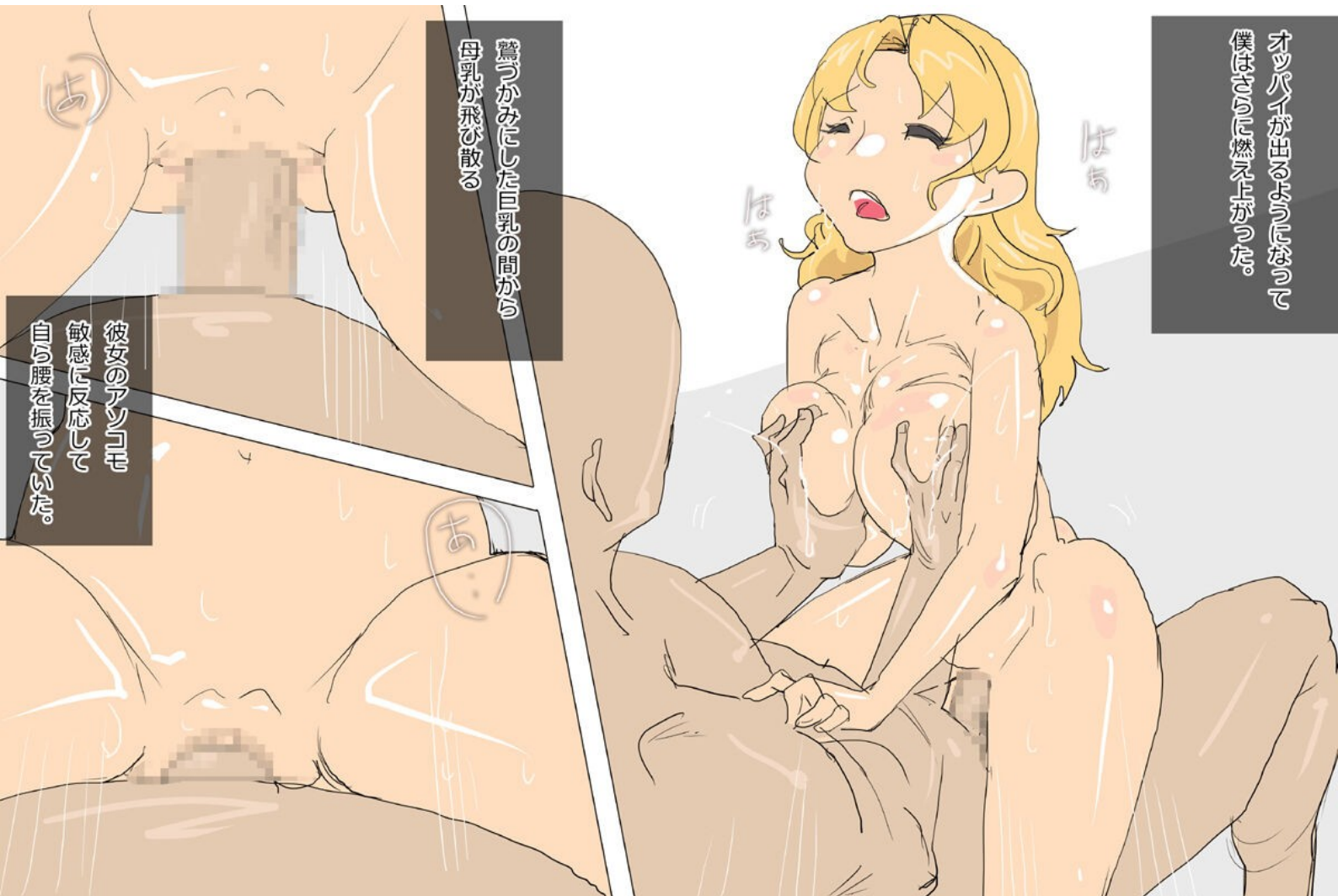


そして
彼女のオッパイから
母乳が飛び出るようになった。

「あ……さ……
母乳を……」

お腹はまだ目立っていないが
確実に彼女は妊娠していた。





オッパイが出るようになって
僕はさらに燃え上がった。

はち

はち

驚つかみつけた巨乳の間から
母乳が飛び散る

彼女のマンコは
敏感に反応して
自ら腰を振っていた。

あ

あ

僕は彼女の口を吸った瞬間
彼女の後でから中出した。

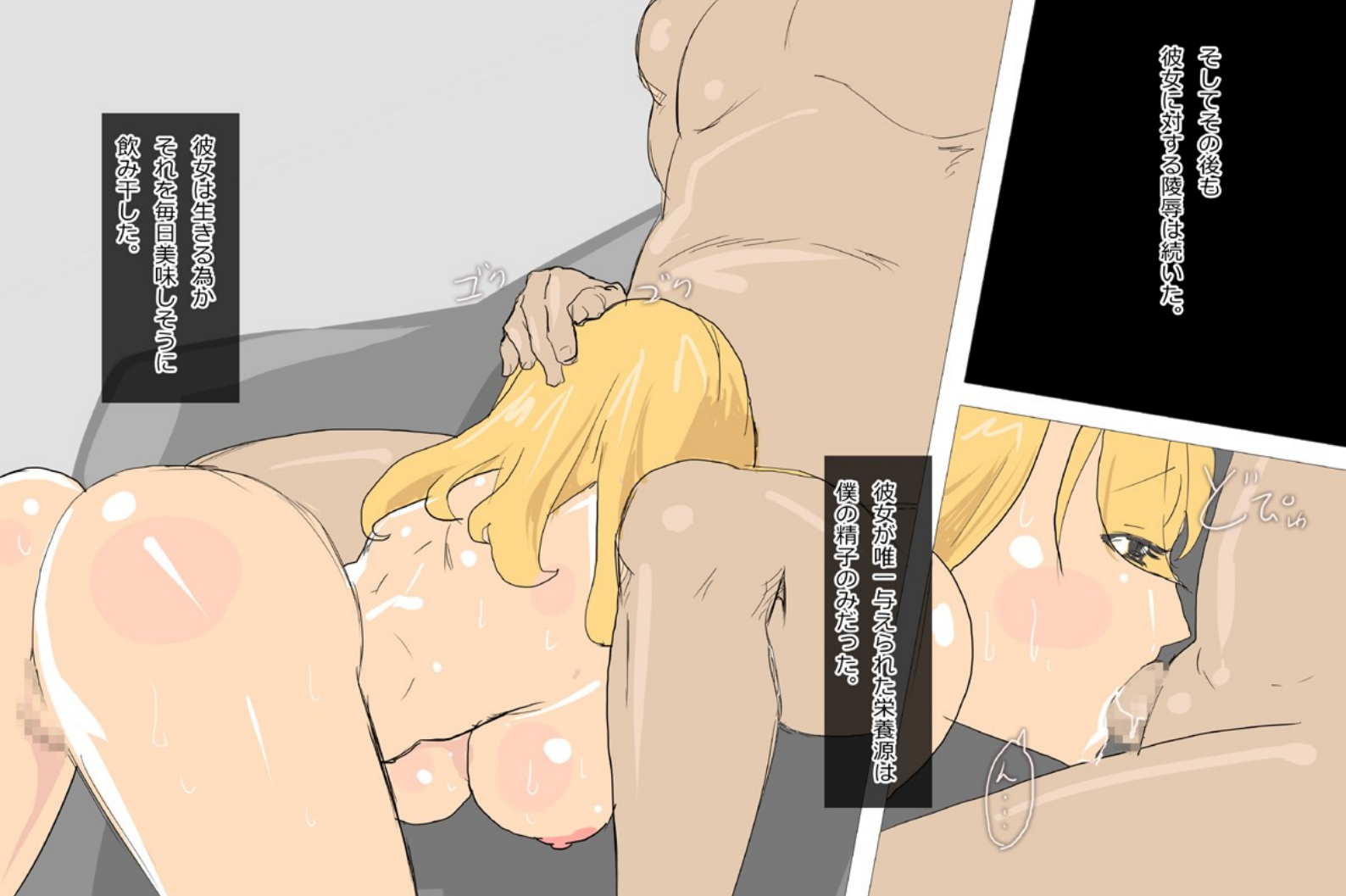


早く妊娠して
これからは申出し放題だね。

その日の夜も
彼女に対する陵辱は続いた。

彼女が唯一与えられた栄養源は
僕の精子のみだった。

彼女は生きた梅が
それを毎回美味しくして
飲み干した。



彼女は本当に僕の奴隷と化した。

朝から晩まで僕を欲しがり従っていた。

不思議な物で人は自分の思い通りに
Step by Step 物に飽くことはない。

僕は巨乳の彼女を男達に売り渡し
自分のもう一つの趣味趣向に走る事にした。



まだ未成熟な○校生達。。。

彼女らも全くと積めば僕の

奴隷になってくれるかな。。。。

〰〰〰〰